

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	プラネタリウム更新事業(ドームシアター整備事業)	会計	一般会計	事業No.	824	施策順No.	29-012	
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-10-4			
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	美術博物館			
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	22	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	美術博物館のプラネタリウム						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	更新を必要とする機器・設備の数				5			
	対象をどう変えるか	機器更新によって天文・情操教育の継続および効果的な展開と、全天映像を利用したふるさと学習などの事業を可能にする。							
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	更新した機器・設備の数				5	5		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	9月補正で事業化され期間が短かったが、館の重点事業として取り組み、予定通りに実施できた。観覧者のアンケートでは概ね肯定的に受け入れられている。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	プラネタリウムの老朽機器を更新し、ドームシアターとして新たな事業を展開する。ドームシアターでは、ドームに地上からの星空だけでなく、宇宙からの天体シミュレーションや全天映像(動画・静止画)を映し出すことができる。そのため、従来の一般投影はよりダイナミックな番組となり、宇宙を楽しく学ぶことができる。また、天文に限定されず、伊那谷の自然や文化など総合的な地域学習が可能となり、さらに遠山や天龍峡など飯田各地の観光ガイド的な利用も可能となる。これらの機能を利用して新たな学習・交流事業を展開する。更新・整備を必要とする機器・設備は次のとおり ①単眼式デジタルプラネタリウム(52,500千円) ②全天映像撮影・編集機器(1,000千円) ③音響機器(19,425千円) ④コンソール(9,030千円) ⑤イス・カーペット(17,787千円)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 プラネタリウム更新についての調査研究 2 デジタルプラネタリウムのデモンストレーションと、その活用をさぐるドームイベントの実施 3 ①単眼式デジタルプラネタリウム ②全天映像撮影機器 ③音響機器 ④コンソール ⑤イス・カーペットを更新・整備する。	1 調査回数 2 実施回数 3 整備する機器・設備の数	1 3回 2 1回 3 5点
23年度実施計画	*ドームシアター運営事業に移行		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		国庫支出金					
		県支出金					
		起債					
		その他					
		一般財源		94,884	94,883		
		計(A)		94,884	94,883	0	
		正規職員所要時間					
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)			0		
		トータルコスト A+B			94,883		

4 事業に対する市民や議会の意見

美術博物館協議会や自然部門評議員会で、主に教育関係者からプラネタリウム更新の希望が出されている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	ふるさと自然と文化を学ぶことによって、ふるさと意識が醸成される。	施策の成果指標又はムトス指標
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	当事業が平成22年度に実現されたため、今後「ドームシアター運営事業」(別進行管理表)で目的達成に取り組むことになる。	
	後期に向けた課題		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	和歌山大学観光学部尾久土正己教授の支援を受けることにより、地域資源の紹介や観光などプラネタリウムの活用の幅が広がった。またドームイベントを平成21年度および22年度に実施し、デジタルプラネタリウムの機能を市民に周知させることができた。これにより市民理解が広まり、更新事業が実現可能となったと考えている。	
	後期に向けた課題		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	使える機器を再利用した。	
	後期に向けた課題		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	条例および条例施行規則を改正し、プラネタリウム観覧料の見直しを行った。	
	後期に向けた課題		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	美術博物館協議会や自然部門評議員会ではプラネタリウム更新の必要性が意見として出されたり、飯田御月見天文同好会などの市民団体からも更新要望が口頭で出されていた。	
	後期に向けた課題		
全体を通じて	4年間の振り返り	今後、更新された新プラネタリウムの活用にあたって市民団体やボランティアなどの関与を検討したい。	
	後期に向けた課題		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	対象や意図を修正する必要はありますか	成果指標や指標値を修正する必要はありますか
----------------------	--------------------	-----------------------

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input checked="" type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
--	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------